

# プレキャスト樋管学ぶ

長山工業  
樋口土木

## 茨建協向け現場見学

久慈川治水河川

国土交通省久慈川緊急治水対策河川事務所（由井修二所長）は15日、県建設業協会向けに、プレキャスト樋管の施工状況見学会を開催した。当日は太田支部や常陸大宮支部、大子支部、高萩支部などから約50人が参加し、施工現場を見学。実際の現場を前に、プレキャスト樋管工法についての学びを深めていた。

開催場所は、R4久慈川左岸家楽地先樋管改築外工事（常陸大宮市家楽地先）の施工現場、R4久慈川右岸舟生地先排水樋管改築外工事（常陸大宮市舟生地先）の施工現場。まずは家楽地先の現場で、工事受注者である長山

工業（株）が施工状況の説明を実施。さらにプレキャスト樋管についての説明を共和コンクリート工業（株）が行った。続いて舟生地先の現場へ移動し、受注者である樋口土木（株）が施工状況を説明。それぞれの現場で見学、質疑応答の時間を設け、参加者はプレキャスト樋管工法への理解を深めた。

同事務所では、令和8年度の完成を目標に久慈川緊急治水対策プロジェクトを進めている。プロジェクトでは、新たに堤防を整備することから、宅地側からの排水を処理するため、樋管が多く整備される。樋管は現場打コンクリートでの施工が主流だった

が、プロジェクトでは施工省力化・工期短縮・現場作業環境の改善などを目的に、プレキャスト樋管を採用している。今回はプレキャスト樋管に関する知識を深めてもらおうと、現場見学会を開催した。

現場では、実際に工期短縮が見込まれている。プレキャスト函渠の使用により、配筋・型枠・コンクリート打設が不要となり、管理項目の省力化が図れるとのこと。

施工性が良く安全性が確保され、プレキャスト部分の強度があるため、盛土後の土圧によるひび割れ等が少なく、安定した品質も確保できる。



▲プレキャスト樋管の施工状況を見学した



建設未来通信

2024年2月21日付